

2. 幼児と児童の交流活動について

1) 互恵性のある交流活動

① 七夕交流会

日 時：令和2年7月6日（月） 9：50～10：30

場 所：北幼稚園

	幼稚園	小学校
参加人数	35名	50名
ねらい	○季節の行事の由来について知り、興味や関心を持つ。 ○1年生と交流を通して親しみを持つ。	○幼稚園児に笹飾りを教えてあげることによって、自分に自信をもつ。
準備するもの、こと	グループ編成をしておく。 	・事前に、幼稚園に教えたいた笹飾りを考えたり、準備したりする。 ・グループ編成をしておく。
活動の流れ	 	 



昨年度は、幼稚園と2年生が七夕交流会を行ったが、今回は、1年担任に声をかけたところ、快く引き受けてくれて行うことができた。

幼稚園担任より



事前に、一緒に内容を確認できたのはよかったが、年間計画に位置づけて計画的に交流会を持てるといい。

1年担任より

<考察>

今回の交流会で、1年生が幼稚園児にやさしく教えたり、リードしたりしている場面があちこちで見られ、入学して間もない時期ではあったが、1年生の成長が感じられた。最後の感想を伝え合う場面で、時間が足りなくなり、もったいない感じを受けた。年間計画に位置づけて、計画的に実施することで、さらに充実した交流会になると思われる。

② お招き会

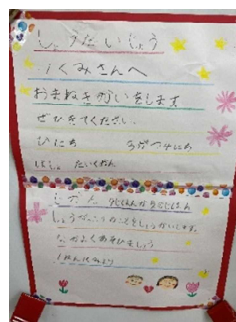
日時：令和3年 3月 4日(木) 9時30分～10時30分

場所 北小学校体育館

参加者 北小学校入学予定園児、幼児教育施設の職員、保護者



	北幼稚園	小学校
参加人数	36名	50名
ねらい	<p>○1年生の発表を見たり聞いたり、参加したりして興味・関心が広がり、小学校生活への期待と憧れを持つ</p> <p>○1年生になる喜びと自覚を持ち、これからの園生活を楽しむ機会とする。</p>	<p>○新1年生との交流会を通して、自分の成長に気づき、2年生への期待を持つ。</p> <p>○新1年生に喜んでもらうために自分にできることを考えることができる。</p>
準備すること	<p>お礼のあいさつをする代表園児と一緒にあいさつを考えておく</p> <p>聞く態度についてもみんなで確認しておく</p>	<p>○招待状作り</p> <p>○園児へのプレゼント(風車)作り</p>



活動の様子

小学校のことを紹介しよう

<音読・歌や合奏・体操や縄跳び・むかしあそび・算数クイズなど>



すごい...

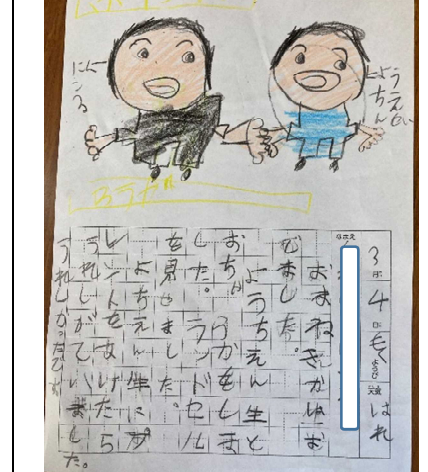
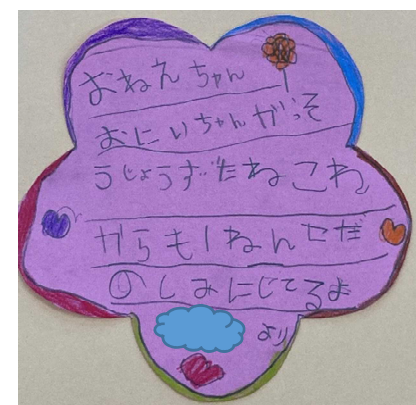


字がいっぱい

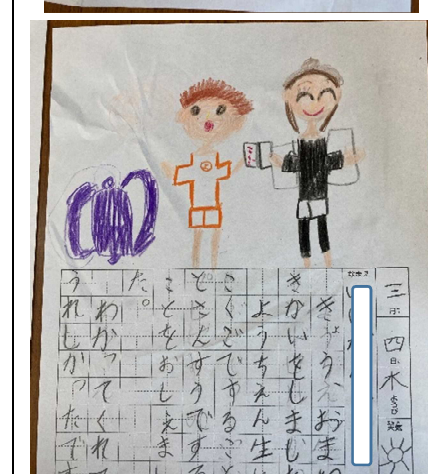
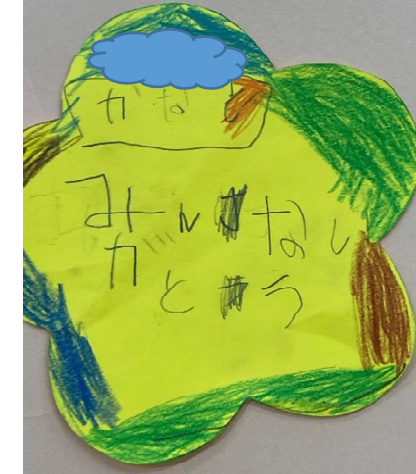


プレゼントのお礼に手紙を出したいという声があった.

交流会後の1年生のワークシート



交流会後





幼稚園担任より

早く1年生になりたいという声がたくさんあり、交流会で小学校生活をイメージし、期待を膨らませているようだ。お礼をどうするか相談したところ、子どもから、手紙を書いた方がいいという案が出た。優しくしてもらったこと、プレゼントをもらったことが嬉しくて、お礼の気持ちを伝えたいと思ったようだ。また手紙という案を出したことに、招待状をもらったことで、自分たちも思いを伝えるには、手紙がいいと思ったのかもしれない。1年生への憧れを感じられた交流会だった。残りの園生活でも交流会での1年生の姿をモデルにしながら過ごしていきたい。



1年担任より

子どもたちが、自分が楽しただけじゃなく、幼稚園生に喜んでもらったことが嬉しかったと話す子が多かった。相手に喜んでもらうことが自分にとっても嬉しいということに気付いており、1年生の成長を感じることができた。

<考察>

幼稚園児から、自発的にお礼の手紙を出したいという声があがったことや、1年生のワークシートからも互惠性のある交流会となったことがわかる。また、交流会の前に幼稚園教諭と小学校教諭で、双方のねらいを確認したことで充実した交流会となった。本園以外の幼児が、今年度初めての交流ということもあり、本園の園児に比べると緊張している様子だった。5歳児同士、横の連携の必要性も感じた。

教諭同士の交流（本研究に係る交流のみ）

4月9日	1年担任と幼小接続アドバイザーとスタートカリキュラムについての話し合い（幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿について）
5月20日	入学直後の1年生の参観
7月2日	七夕交流会計画（1年担任、幼稚園教諭）
7月6日	七夕交流会
12月3日	1年生の生活科授業の指導案検討会
12月4日	1年生の生活科校内研授業参観
3月1日	保育ドキュメンテーション（幼児教育と小学校教育について） 接続期のカリキュラムについて、お招き会計画確認
3月4日	お招き会
3月5日	お招き会の振り返り



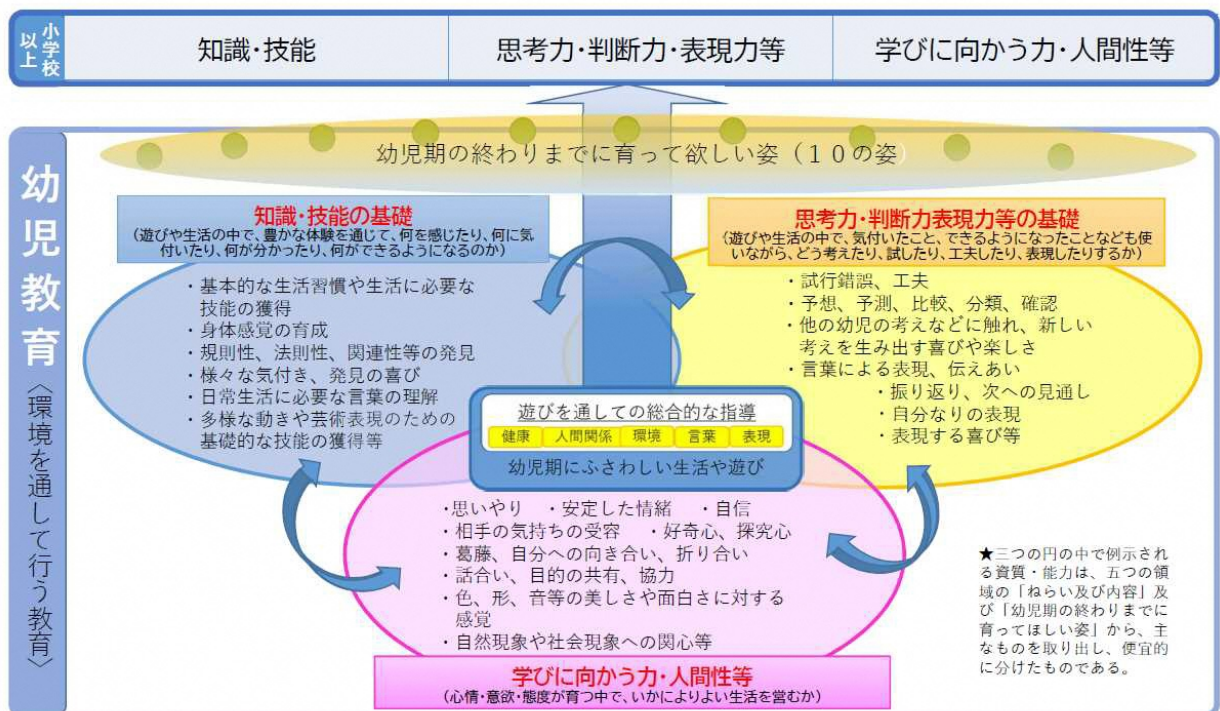
3. 幼児期の学びのプロセスの可視化について

幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるようにするためには、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を手がかりに幼児期の学びのプロセスを小学校と共有していくことが大切である。

1) 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び10の姿「幼稚園教育要領」

- 1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むために、幼稚園の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。
- (1)豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- (2)気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- (3)心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
- 3 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」は、幼稚園教育要領の示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

① 幼児期に育みたい資質・能力の整理(文科省資料をもとに作成)



② 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」（10の姿）




健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自身を持って行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有して、共通の目的に実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性、規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れあう中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみを持つようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり ・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚を持つようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身につけ、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と 表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲を持つようになる。
----------------------	--

③ 幼児期や小学校で具体的に見られる10の姿


幼稚園では		小学校では…
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの目的に沿って、時間をうまく使ったり、場所を選んだりして、自分たちで遊びを進めていく。 ・時々夢中になって、決めておいたことを忘れることもあるが、声を掛け合ったり自分で気をつけたりして見通しを持って行動しようとする。 ・思い切り体を動かしたり、様々な動きを楽しんだりする。 ・必要な時に休憩をとったりする。 ・衣服の着脱、食事、排泄などの生活行動を自分で行う必要性やどのように行うかなどがわかる。 ・病気にならないように手洗いやうがいを丁寧にする。 ・健康のために大切だと感じて、食べ物などのことに興味を持ったり、友だちと楽しく食事をしたりするなど、体を大切にする活動を進んで行ったりする。 ・避難訓練等を通して、災害などの緊急時の適切な行動がわかり、状況に応じて安全な方法で行動を取ろうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・時間割を含めた生活の流れがわかり、次の活動を考えて準備をする姿。 ・体育等での運動遊びや休み時間などに友達と一緒に楽しく過ごす姿。 ・様々な場面でのびのびと行動する姿。 ・交通ルールを守ったり、安全な生活のために必要なことを自らしたりしようとする姿。
<ul style="list-style-type: none"> ・当番の日などに、片付けを早めに済ませて当番活動をするなど、自分がしなければならないことを自覚して行動する。 ・うまくいかなくても、諦めずに繰り返し挑戦する。 ・友だちのやり方をみたり、聞いたり、考えたり工夫したりして何度も取り組む。 ・できようになるまで続けることで達成感を味わい、自信を持って行動する。 ・自分で課題を設定し、もっと難しいことにも挑戦していこうとする。 ・教師や友だちに認められることで意欲を持ち、自信を確かなものにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿。 ・生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿。 ・自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする姿。

幼稚園では		小学校では…
<ul style="list-style-type: none"> ・お楽しみ会など、やりたいという意見が出されるとクラスのみんなでどんな会にするか話し合う。これまでの体験を生かして、どのような準備が必要か、飾りつけや司会進行はどうするかなど、必要なことを教師や友達と話し合い、互いの得意なことを生かすなど工夫して楽しみながら進め、やり遂げた充実感を味わったりする。 ・目的の実現に向けて、考えたことを相手に分かるように伝えながら、工夫したり、協力したりし、充実感を持って幼児同士でやり遂げるようになる。 	協同性	<ul style="list-style-type: none"> ・学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力する姿。 ・様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりする姿。 ・友だちのよさに気づき、自分の思いや考えなどを相手にわかるように伝えて遊びに誘ったりする姿。
 <ul style="list-style-type: none"> ・いざこざなどの場面でも、自分の体験を基に、友だちの気持ちに共感したり、より楽しく遊べるように提案したりし、自分たちで状況を解決したり遊びを継続したりするようになる。 ・自分の行動が正しいと思っていても、話し合いの中で友だちの納得できない思いを受け止めたり、友達に気持ちを受け止めてもらったことで、自分の行動を振り返って相手に謝ったり、気持ちを切り替えるなどの姿が見られる。 ・より面白くなるように、ルールをつくり変えたり、友だちと一緒に楽しめるように特例をつくったりするようになる 	道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの気持ちに共感し、ルールを守りながら活動や遊びに取り組む姿。 ・相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする姿。
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや教職員、他の幼児の保護者などいろいろな人と親しみを持って関わる中で、家族を大切にしようとする気持ちを持つ。 ・小学生や地域の人と触れあったりする中で、相手に応じた言葉や振る舞いなどを感じ、考えながら行動しようとする。 ・散歩や園庭のまわりの掃除などの機会に、地域の人と会話したり、温かい言葉をかけてもらったりすることで、見守られている安心感や役に立つ喜びを感じたり、地域に対する親しみをもったりする。 	社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の状況や気持ちを考えながら、いろいろな人と関わることを楽しむ姿。 ・身近なものとの関わりから気付いた情報を積極的に取り入れて活用し、楽しみながら伝えたりする姿。

<ul style="list-style-type: none"> 自分が知っていることを遊びや生活に取り入れ、友だちと伝えあいながら活動する際に、本や図鑑を手がかりにより本物らしく再現しようとし、遊びをより充実したものにする。 地域の公共施設を訪れることで、その場所や状況に応じた行動をとりながら大切に利用したりする。 		<p>社会生活との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設などに出かけ、地域の様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深めたり、地域の人と関わったりしながら、社会との繋がりを意識する姿。
<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、ものの性質や仕組みなどを生かして、考えたり、予想したり、工夫したりする。 身近な環境との多様な関わりを楽しむようになる。 友達の様々な考え方に触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付く。 自ら判断したり、考え直したり、新しい考えを生み出す喜びを味わう。 自分の考えをよりよいものにしようとする姿が見られる。 他の他児との意見や考えの違いに気付く 物事をいろいろな面から考えられるようにすることやそのよさを感じられるようにする。 		<p>思考力の芽生え</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わる姿。 探究心を持って、予想したり、試したりする体験が、主体的に問題を解決しようとする姿。
<ul style="list-style-type: none"> 蝶の卵や幼虫をみつけて毎日観察していく中で、食べる葉っぱと食べない葉っぱに気付いたり、うまく脱皮してもきれいに羽が広がっていないと飛べないことに気付いたりする。そのために、餌となる葉を入れておいたり、食べなかったら心配したり、さなぎになったら観察ケースを揺らしたりしないなど、命ある物として大切に扱おうとする。 自然に触れ、自然の変化を感じ取り関心を持ったり遊びに取り入れたりする。 自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。 身近な自然事象などに一層好奇心や探究心をもって関わる。 生き物に適した関わり方ができる。 		<p>自然との関わり・生命尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習において、身近な自然の美しさや不思議さに感動したり、関心を持ったりする。 生き物と関わり、生命あるものを大切に、生きることのすばらしさを感じたり、考えを深めたりする。

幼稚園では		小学校では…
<ul style="list-style-type: none"> これまでの体験を基に、生活や遊びの中で必要感をもって、多い少ないを比べるために物を数えたりする。また、長さや広さなどの量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだりする 園内にあるマークと文字などから、標識のもつ機能を理解し、自分たちの遊びや生活の中で、片付ける場所などにわかりやすいように標識を作ったり、栽培物を植える際には、何を育てているか誰にでも分かるように看板を作ったりして楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> 文字には人に思いを伝える役割があることに気づき、先生や友だちに「あしたもあそぼうね」や「いつもありがとう」など手紙を書いたりして、つながりを感じたりする。 	数量や図形、 標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中にある標識や文字などに関心を持ち、学んだことを使おうとする。 自分たちの遊びや生活の中で、楽しみながら数えたり比べたりして、実感を伴って理解する。
<ul style="list-style-type: none"> 園外保育や園庭などで、木々の間から差し込む太陽の光に気づき、「キラキラしているね」「目がチカチカする」などと話しているなかで、読み書かせて読んでもらった絵本の中の「こもれび」という言葉を思いだし、「こもれびってキラキラしているんだね」や地面に映ったこもれびをみつけて「ここにもこもれびがある」など、気付いたこと友だちや先生に伝えたりする。 伝える相手や状況に応じて、言葉の使い方や表の仕方を変える。 経験したことや考えたことなどを相手に分かるように工夫しながら言葉で伝える。 相手の話を注意して聞いて理解する。 言葉による伝え合いを楽しむようになる。 	言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介などで、初めて出会う先生や友だちと新たな人間関係を築く。 自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。 相手の話を聞いて理解したり、言葉による伝え合いを楽しんだりする。



幼稚園では		小学校では…
<p>・グループで劇を作ったりする場面などで、役に応じて話し方や動き方を工夫したり、必要な素材や用具などを使って作りあげる、効果音を考えるなど、表現すること自体を楽しむとともに、友達と一緒に工夫することで、新たな考えを生み出すなど、より多様に表現できるようになっていく過程を楽しむようになる。</p> 	<p>豊かな感性と表現</p>	<p>・自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選んだりする姿。</p> <p>・感性を働かせ、自信を持って表現することを楽しむ姿。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>小学校生活を意欲的に進める基盤になる</p>

2) ドキュメンテーションについて

ドキュメンテーションとは、もともとイタリアのレッジョ・エミリア市の保育実践から生み出された記録様式を指す。レッジョ・エミリアでは、子どもが興味を持ったテーマについて、少人数で、長期的にわたり探索する活動（プロジェクト）を保育の中心に据えている。事後報告的な記録としてではなく、「ドキュメンテーション」を参照し、活動を継続、「学びを深める」ためのツールとして使われている。

日本ではこれまで、保護者への単なる発信物として広がってきた経緯が見受けられる。そうした中、保育の質の向上や、振り返りのサイクルの重要性などが強調されるようになってきた。そこで写真付きの記録も「学びのプロセスを可視化する対話のツール」として思考錯誤されてきている。レッジョ・エミリアにならいつつも、日本の現状に合わせて写真付きの記録を「日本版保育ドキュメンテーション」と捉えることとする。

「日本版 保育ドキュメンテーションのすすめ」大豆生田啓友・おおえだけいこ著

① 日本版保育ドキュメンテーション

(ア)「エピソード記録」と「写真」で、保育者がまとめた記録。

(イ) やったことだけでなく、子どもの具体的な姿、子どもの心、力の育ちが伝わる記録

(ウ) 保育者のみならず、子ども、保護者、さらには地域の人も見ることができ対話を引き出す記録。

(エ) その作成を通して、保育の振り返りや計画作りができる記録。

(オ) これによって、保育の力が高め合え、「子どもや保育がおもしろい！」と思えてくる記録。

「砂場あそび」から見える子どもの学びのプロセス

合体しよう～



砂場で掘った穴に水をためるために、水道と砂場を往復していたK児。
 K児「先生、水を運ぶの手伝って！」
 T「近くに水道あったらいいのにね」
 K児「水の通る道があったらいいけど、遠いから、通り道作るのに明日までかかるから無理だよ…」
 T「完成まで毎日やってもいいんじゃない？」
 J児「いいのがある！」と雨どいを3本取ってくるも足りず、また3本取ってきた。別々に穴を掘っていた2グループが、一緒に雨どいを組むために協力した。支えたり、抑えたり、掘ったり…Tも一緒に手伝い、ホースの近くまで雨どいが組めたところで片付けの時間となった。
 K児「先生！明日も一緒にやろう！」

ここから水が漏れてる…

1/18



1/19

K児、登園後、持ち物を片付けるとすぐに砂場へ。雨どいを準備して、前日のように組みたい様子。砂場セットから、いろいろなものを組み合わせ、高さの調整をし、なんとかつながった。途中、Tにずっと雨どいを支えてほしいとお願いしてきたので、「ずっと持っているのは大変だから、何かに置きたいなあ」ひらめいたように、園庭を見回し、かごやケーブルドラムを運んできた。砂場ワゴンも使っていたことを思い出したようで、2日目もなんとか水道の近くまで雨どいを組めたが、ホースを支えていないとすぐに雨どいから落ちてしまう。どうすればいいか考えているところで片付けの時間となった。



ホースをずっと持っていないとおちちゃう。

高さを調整する工夫



1/20

雨どいを使って砂場まで水を流す遊びを楽しんでいるのを見て、友だちが集まってきた。アイデアを出し合い、雨どいを支える役、高さを調整する役、ホースが届く所までなんとか自分たちで雨どいをつなげることができた。

これも運んできたよ～



ここ（つなぎ目）から水が戻っていくんだけど…



帰りの会で、雨どい遊びで水を使っているのを見て、その水でサッカーコート近くが水浸しになって困っているという声があり、どうしたらいいか話し合った。J児からホースをつないでいる蛇口をサッカーコートから少し離れた蛇口につないでみたらどうかという提案があった。

1/21

もっと道具が必要だ！



前日の話し合いで、ホースをつなぐ蛇口を隣へ変えたことと、担任の先生がうまくつながった時の写真を掲示してあったことから「写真があるから自分たちでつなげるよ」と、雨どい遊びに必要なものを走って準備する姿があった。これまで、Tがヒントを出したりしてなんとかつないでいたが、この日は自分たちだけでつないでみようと思っているようだ。なんとかホースから砂場までつながったが、高さの違いからつなぎ目から水が漏れたり逆流したり…あきらめようとしていた。それをじっと見ていたY児がザルを置いてみると、つなぎ目の水が逆流せずに砂場に向かって流れ出した。

これを置いてみたらどうなるかなあ



毎日夢中になって遊んだり、明日また続きをやろう、明日はこうした方がいいな、など見通しを持ち自分のやりたいことに向かって行動する姿から、健康な心と体が育ってきていることが読み取れる。

雨どいが崩れてしまうのを何度も直したり、自分たちでつなげようと考えたり、工夫したりしながら、あきらめずに取り組んでいる姿から自立心が育ってきていることが読み取れる。

雨どいをホースの近くまでつないで、水を砂場まで流したいという思いを共有し、必要なものを運んできたり、雨どいやホースを支えたりと、実現に向けて協力しあう姿から協同性が育ってきていることが読み取れる。

雨どいをつないでも、水が漏れたり、逆流したりしているため、どうすればいいか考え、雨どいの高さや支える道具の形、数量や置き方を変えてみたり、試したり、また友だちの考えを聞いたりしながら、新しい方法を生み出したりする姿から、数量や図形などへの関心感覚、思考力の芽生えが育ってきていることが読み取れる。

小学校では…

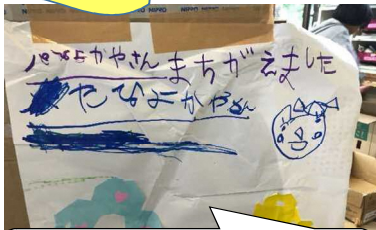
- ・体育等での運動遊びや、休み時間などに友だちと一緒に楽しく過ごす
- ・様々な場面でのびのびと行動する。
- ・時間割を含めた生活の流れが分かり、次の活動を考え準備をする（見通しをもって行動する）

- ・すぐにはできないことも、目標に向かって粘り強く取り組んだりする。
- ・自分なりに考えて意見を言ったり、わからないことや難しいことを教師や友だちに聞いたりして粘り強く取り組んだりする。

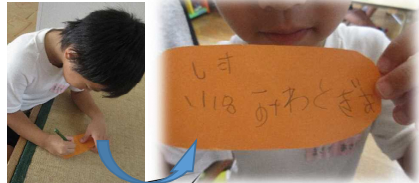
- ・友だちの良さに気付き、自分の思いや考えを相手にわかるように伝えて遊びに誘ったりする。
- ・共通の目的にむけて友だちと話し合い、協力して取り組んだりする。
- ・学級などの集団生活の中で、共通の目的に向かって自分の力を発揮しながら友だちと協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりする。
- ・教師や友だちと協力して生活したり学び合ったりする。

- ・新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって自ら考えたり、判断したりして多様に関わったりする。
- ・探究心を持って、予想したり、試したりしながら、主体的に問題を解決しようとする。

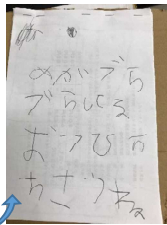
幼稚園では



パピよかやさん。まちがえました。たぴよかやさん。
*段ボールで作ったお店の看板



なわとび118かいとびました
目標のなわとび100回を初めて超え、118回も跳べたことが嬉しくて、お母さんに伝えたいので、忘れないようにメモにしている姿。

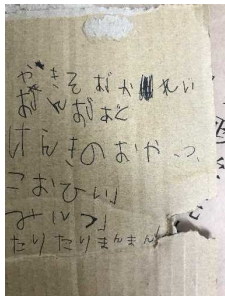


めがぐらぐらしてる。〇〇〇〇ねつ
*聴診器をかけ、医者になりきってカルテに記入。担任と一緒につれて行った人形の目が少しぼつれていたことから、カルテに状態を書いている。担任は、ねつ



うりきれました
おみせやさんごっこのレジ前にお知らせ。

やきそばきれい
はんばあく
げんきのおやつ
こおひい
みらく
たりたりまんまん
レストランのメニュー一表。



段ボールで家を作って遊んでいたが、家に時計が必要だと気づき、園の時計を見ながら書いている姿

育ってきている力

文字の役割に気づき、必要感に応じて、文字を活用したりする姿から、文字等への関心・感覚が育ってきていると読み取れる。

小学校では

- ・日常生活の中にある標識や文字などに関心を持ち、学んだことを使おうとする。

幼稚園では



コマ回しが盛り上がってきた時期に、コマ回しが得意な園児の祖父や隣接小学校の職員を招き、コマまわしのコツや新しい技、けん玉などを教えてもらった。その後も、コマ回しやけん玉を繰り返し楽しんだり、新しい技に挑戦したりする姿がみられた。



地域の保育所の子たちを招いて遊んだあと、見送りになると、自分たちが小学校に招待された時、アーチを作って見送ってもらったことがうれしかったのか、年下の幼児を見送る際に自分たちでアーチを作って送ってあげる姿がみられた。



地域行事の海神祭のパレードのために、必要な小道具を楽しんで作り、小学生と一緒に参加した。その日は、パレードで船主や地域の方達に声かけられたり、地域ならではの伝統行事を身近に感じて過ごす1日となった。その後、園では、祭りの特徴的なところを再現したごっこ遊びや空き箱や廃材などを使って船作りをして楽しむ姿が見られた

育ってきている力

- ・地域の行事を楽しみにし、行事を盛り上げるための小道具を喜んで作ったり、楽しんで行事に参加したりする姿から、地域に親しみを持っていることが読み取れる。
- ・地域の方や隣接する小学校のお兄さんお姉さん、小学校の職員、保育所の年下幼児など身近な人と触れあう体験を重ね、人との様々な関わり方に気付いたり、体験したことを自分たちの遊びや生活に生かしたりする姿から、生活に必要な情報を取り入れ、社会とのつながりを感じていることが読み取れる。

小学校では

- ・相手の状況や気持ちを考えながら、いろいろな人と関わることを楽しんだりする。
- ・関心のあることについての情報に気付いて積極的にとりいれたりする。
- ・地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで、興味や関心を深める。
- ・地域への親しみや地域の中での学びの場を広げていく。

VI 成果と課題

<研究の仮説>

幼小接続において、接続期のカリキュラムの作成、互惠性のある幼児と児童の交流活動の充実、幼児の学びのプロセスの可視化等を工夫することで、教育内容の相互理解が深まり、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることができるであろう。

研究内容	接続期のカリキュラムの作成	互惠性のある幼児と児童の交流活動について	幼児期の学びのプロセスの可視化について
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿を見通した内容に改善できた。 ○教師の援助がより具体的になった。 ○小学校で見られる姿をカリキュラムに入れたことで、学びのつながりがわかりやすくなった。 ○長期のねらいを意識した週案を作成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に話し合いを持ち、双方のねらいを確認したことで、互惠性のある交流活動になった。 ○交流の様子を通して、児童理解・幼児理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の学びのプロセスをドキュメンテーションの作成を通して可視化することができた。 ○幼児期の学びのプロセスを伝えるツールとして、ドキュメンテーションを活用したことで、1年担任と10の姿について共有することができた。 ○ドキュメンテーションに小学校で見られる姿を示したことは、効果的であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校と合同での接続カリキュラム(スタートカリキュラム含)の作成 ●継続的な接続カリキュラムの見直し, 編成 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的な交流活動 ●1年生以外の学年との交流活動. 	<ul style="list-style-type: none"> ●より見やすくわかりやすいドキュメンテーションの作成の工夫 ●1年担任以外の職員との共有
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ◇計画的な連絡会を実施する. ◇幼小接続担当との連携強化を図る. 	<ul style="list-style-type: none"> ◇交流活動を年間計画に位置づける. 	<ul style="list-style-type: none"> ◇就学前だけでなく、日々のドキュメンテーションを小学校と共有する.

【参考文献・引用文献】

- ・ 文部科学省 2018 「幼稚園教育要領解説」「小学校学習指導要領」
- ・ 文部科学省 2010 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」(報告)
- ・ 文部科学省 2020 「指導計画の作成と保育の展開」
- ・ 文部科学省 「初等教育資料」
- ・ 汐見稔幸 2018 「さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか」 小学館
- ・ 無藤隆 2018 「幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿」 東洋館出版社
- ・ 無藤隆・汐見稔幸 2017 「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房
- ・ 善野八千子・前田洋一 2011 「幼児期と児童期の接続カリキュラムの開発
～子どもの育ちと学びをつなぐために～」 MJ-Books
- ・ 上越教育大学附属幼稚園 2013 「平成24年度 研究紀要 幼小接続を考える Vol.3」
- ・ 杉浦英樹 2019 「上越教育大附属幼稚園 遊び込む子どもを支える幼稚園カリキュラム
～未来の幼児教育・保育のために～」 学文社
- ・ 上越教育大学附属幼稚園 2019 「子どもの育ちを支える～教育課程と年間指導計画」
- ・ 大豆生田啓友・おおえだけいこ 2020 「日本版 保育ドキュメンテーションのすすめ」
小学館
- ・ 大方美香 2018 「10の姿で伝える要録ハンドブック」 学研
- ・ ベネッセ情報誌 「これからの幼児教育」 ベネッセ教育総合研究所

【指導助言】

- 宮古島市立教育研究所所長 田場 秀樹
- 宮古島立教育研究所指導主事 座間味 浩二
- 宮古島市教育委員会 学校教育課課長 垣花 秀明
- 宮古島市教育委員会 幼小接続アドバイザー 宮國 和美

【本研究に係る協力】

- 上越教育大学附属幼稚園
- 上越教育大学 特任教授 長谷川 敬子
准教授 山口 美和
- 森のようちえん てくてく 園長 小菅 江美

【アンケート調査協力者】

- 宮古島市内5歳児幼児教育施設 園長, 幼稚園教諭,
- 宮古島市内の小学校 1学年担任